

# 囲碁入門講座通信 令和2年 第4号



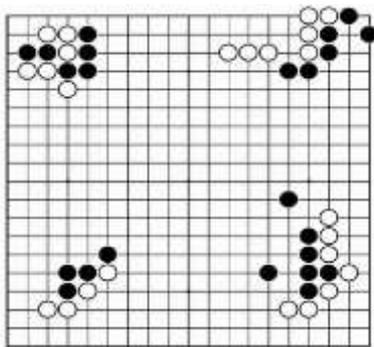
報告:有楽斎

毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの蜜」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中**です。

緊急事態宣言期間中は、外出も儘ならず何かとストレスを感じますが、第3号に続き今号でも、入門者用の詰碁の練習問題を少々ご案内したいと思います。(予定より早く発行しました。しばらく月2回の発行を予定しています)  
(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

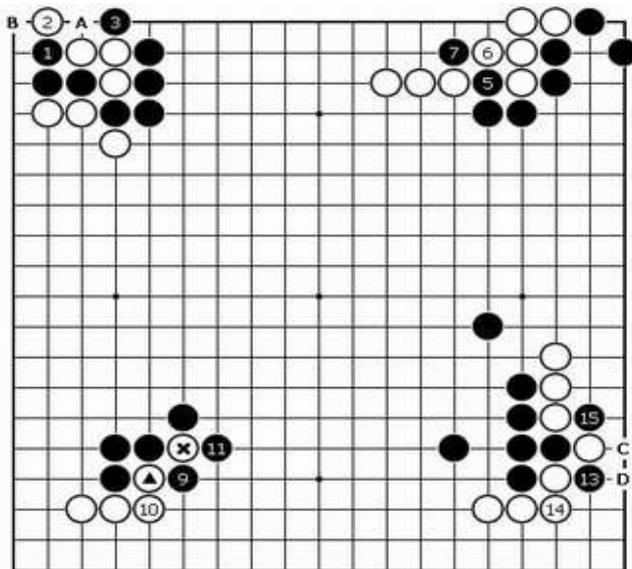
**練習問題 石の取り方(黒番)** (棋士名は碁に因んだ名をニックネームとして表記しています)

**黒先で白石を取ってください。どの石が取れるか、ノーヒントです。**  
(上図が問題で下図が答えです。答えの解説文を見ずに考えて下さい)



**左上(3手の読み)** 黒1と打つと黒のダメは2つから3つに増えます。一方、白3子のダメは3つから2つに減ります。前号の問題(左上の形)と似ていますね。白2には黒3が3手の読みです。このあと白Aとついても、黒Bとまとめて打ち抜かれます。

**右上(出ギリ)** 初心者が実戦でうっかりしそうな形です。黒5と穴の開いたところを出て、黒7と切る。これで白石がもぎ取れます。



**左下(両アタリ)** 黒9が正解。×と△の白石が同時にアタリになっています。この形を両アタリといいます。白は両方を同時に防げないので、取られると被害が大きい白石△(本体)のほうを白10と守ります。それなら黒11とポン抜いて、黒が強力になりました。

**右下(キリ)** 黒13と切り、白14とアタリの石をつなげば、黒15こちらの石を取ります。白Cと逃げても黒Dまで。白地が突き破られ、大きな被害です。白のこの形も、初級者が気づきにくい形の欠陥です。こうなる前に白は13と守っておかなければなりません。